

鉄骨工事 Q&A	工事現場溶接	溶接技能者資格	制定	2021年5月1日
			改訂	

Q. 直径500mmの円形鋼管柱継手の工事現場溶接を行う溶接技能者の資格はJISあるいは(一社)AW検定協会(以下、AW)の鋼管の資格が必要でしょうか？

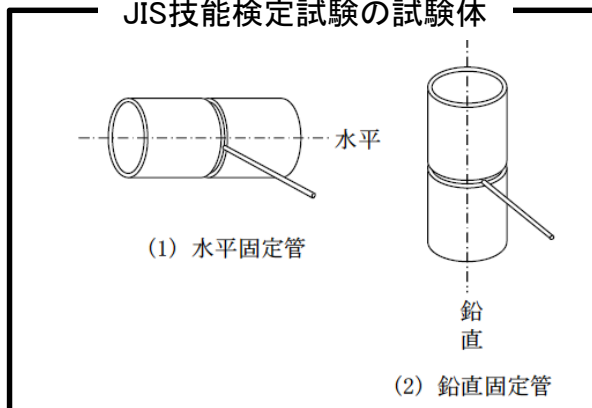
A.

溶接技能者の技能検定試験のJIS解説では、「管の外径が400mmまでのものを管として扱いそれ以上の外径のものは板として扱うのが一般的である」としています。この場合400mmを超えていますのでもしJIS有資格者で溶接する場合は「板の横向き姿勢の資格(H)」が必要となります。

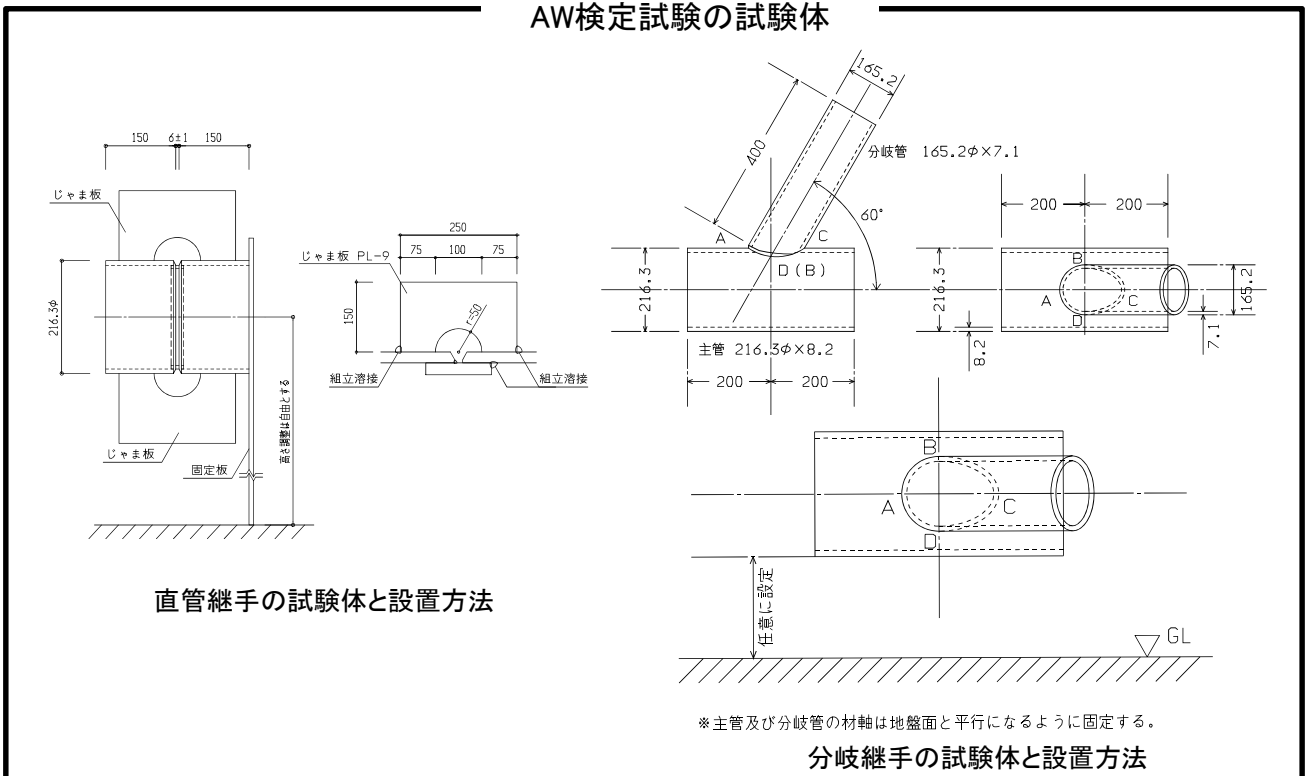
また、AWの資格としては工事現場溶接横向き資格(鋼製エンドタブの場合はⅡ類、代替タブの場合はⅤ類)が該当します。このAWの資格が必要か否かは設計図書に拠ります。

参考にJISとAWの鋼管の資格を下に示します。JISでは一本の試験体を水平・鉛直にして溶接を行います。AWの試験体は鋼管を水平にした試験体と分岐継手の試験体の両方を溶接し、両試験体共、合格する必要が有ります。AWの鋼管資格は、パイプトラス等の溶接を対象としています。

JIS技能検定試験の試験体



AW検定試験の試験体



参考:(一社)日本建築学会 鉄骨精度測定指針、2018

鉄骨工事技術指針・工場製作編、2018

出典:(一社)AW検定協会 鋼管溶接試験基準及び判定基準